



# 診療技術部だより



令和6年6月 Vol.29 リハビリテーション科  
 今回のテーマは「MMSE-J(精神状態短時間検査-日本版)」です。  
 今回はリハビリ的な視点にてご紹介します。

## MMSE-J とは

MMSE-J は、世界的に使われている認知症スクリーニング検査 MMSE (Mini-Mental-State-Examination) の日本版です。この検査は、認知機能低下の方に行う評価としてのイメージが強いと思いますが、評価項目には高次脳機能障害を評価することが出来る内容が含まれています。その為、**認知症疑いの方以外に、高次脳機能障害が疑われる方**にも実施されています。

## 評価項目

	質問と注意点	反応	得点	
時間の見当識	1 今年は何年ですか		0 1	28. 「これを読んで、書いてあることをやってください」
	2 季節は何ですか		0 1	「目を閉じてください」
	3 何月ですか		0 1	29. 「文を書いてください」
	4 今日は何曜日ですか		0 1	( )
	5 今日は何日ですか		0 1	30. 「この図を書いてください」
場所の見当識	6 ここは何地方ですか		0 1	
	7 何県ですか		0 1	
	8 何市ですか		0 1	
	9 この建物の名前あるいは種類は何ですか		0 1	
	10 何階(部屋番号、番地、あるいは部屋の種類)ですか		0 1	
記録	11 「これから3つの単語を言います。私が言った後で繰り返してもらいます。ボール、【1秒間の休止】旗、【1秒間の休止】板【1秒間の休止】さあ、今言った言葉を繰り返してください」		0 1 2 3	<p>～カットオフ値～</p> <p>合計30点</p> <p>27点以下：MCI（軽度認知障害）疑い</p> <p>23点以下：認知症疑い</p>
	12 再検査するときには代わりの単語セット(例：りんご、一月、机)を用いたときは書き留めてください。			
	13			
注意と計算	14 100から7を引き算するといくつになりますか		0 1	<p>～注意点～</p> <p>・個室など静かな場所で行う</p> <p>・カレンダーなどヒントとなるものを置かない</p>
	15 受験者がシリアル7課題を新った場合のみ次の逆唱課題を行う		2 3	
(逆唱課題)	16		4 5	<p>い</p>
	17 「セカイチズ」という単語を後ろから言ってください			
再生	18			<p>い</p>
	19 あなたに覚えるように頼んだ3つの単語は何でしたか		0 1	
	20		2 3	
呼称	21			<p>い</p>
	22 「これは何ですか」鉛筆		0 1	
復唱	23 「これは何ですか」腕時計		0 1	<p>い</p>
	24 今から私が言う文を繰り返して読んでください 「つべこべ言っても駄目」		0 1	
理解	25 白紙を受験者の前に置き「あることをしてもらいたいで、よく聞いて下さい。紙を右手で取って【休止】それを半分に折り【休止】戻しておいてください。」		0 1	<p>い</p>
	26		0 1	
	27		0 1	
読字	28 「これを読んであることをやってください」		0 1	<p>い</p>
書字	29 「文を書いてください」		0 1	
描画	30 この図を書いてください		0 1	

## 各評価項目の説明

見当識	現在の日時や、自分がどこにいるのかなど <b>状況把握能力</b> を評価する。
記録	記憶には記録-保持-想起の3段階があり、 <b>短時間での記録力</b> について評価する
計算	記憶力と脳内に記憶された情報に対する <b>作動力</b> を評価する。 <b>ワーキングメモリ(作業記憶)の評価</b> につながる。
再生	記録した事をしばらく保持し、それを即座に呼び起せるか、 <b>短期記憶</b> を評価する。
呼称・復唱	目にしたものを正しい名称で言えるか。ある程度の長文を記憶する力( <b>即時記憶</b> )を評価する。
理解	文章を理解し、指示されている事を実行できるか。 <b>理解力と行動力</b> を評価する。
自発書字	読み手が理解できる文章を書けるか。 <b>文章の構成能力</b> を評価する。
描写	情報の配置・位置・方向を認識し頭の中で操作できるか。 <b>空間認知能力</b> を評価する。

## 評価結果の活用 ～減点項目に応じて対応・注意点が異なります～



見当識	<b>カレンダー</b> を使用し、日付が見えるようにしたり、 <b>今いる場所</b> を書面にしたりします。病室までの <b>道のり</b> に <b>矢印</b> などを使用する事で迷いにくくなります。
記録	言われた直後の内容を覚える事が苦手です。 <b>一度に多くの事を伝え</b> ないようにしましょう。
計算	同時に複数の事を行う事が苦手です。作業をしている際は <b>終わるまで新しい情報を伝え</b> ないようにします。 <b>静かな環境</b> で作業や活動をしていただく事も良いでしょう。
再生	記憶する事が苦手です。伝えたい事や重要な内容は <b>書面にしたり、一緒に書き留めたり</b> しましょう。
呼称・復唱	失語症の可能性があるため、言葉や <b>ジェスチャー</b> など <b>対象者が分かりやすい方法</b> で伝えましょう。
理解	聞いても理解していない事があります。対象者に今から <b>何を</b> するのか <b>確認</b> しましょう。
描写	空間の認識が苦手です。物の距離感や形が分からず、物にぶつかる可能性があります。複数の物を置かない・色をつけてメリハリをつけるなどの <b>環境調整</b> をしましょう。

あくまでも一つの見方として紹介させていただきました。疑問点がありましたら気軽に  
ご相談ください。次回の診療技術部だよりは歯科口腔外科です。

